

## ヒューマンエラーの原因と対策 ~事故の裏に潜むもの~

### ヒューマンエラー12の原因

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1、無知、未経験、不慣れ    | ● 現場経験の長さに関係なく、初めての作業や環境の変化に伴い不慣れになる       |
| 2、危険軽視、慣れ       | ● <b>危険とわかっていてもそれを受け入れ(リスクテイク)不安全行動をする</b> |
| 3、不注意           | ● 一つのことに集中して他のことに注意を払えない                   |
| 4、連絡不足          | ● <b>現場での安全指示がうまく伝わらない、正しい安全指示が行われない</b>   |
| 5、集団欠陥          | ● 工期等が厳しい場合、安全が二の次になり不安全行動に対して注意しづらくなる     |
| 6、近道・省略行動の本能    | ● 面倒な手順を省略し、効率的に物事を進めようとする                 |
| 7、場面行動本能        | ● 起こった事故に対して、とっさに対応しようとする本能                |
| 8、パニック          | ● 驚いたり、あわてたときに正しい判断ができなくなり、エラーを犯しやすくなる     |
| 9、錯覚            | ● 見間違いなど五感による間違いと、ど忘れ、思い込みなどで間違いがおこる       |
| 10、身体の機能低下      | ● 加齢による視力やバランス感覚の低下など身体能力の低下               |
| 11、疲労等          | ● 疲労が蓄積すると自らの意思に反してミスを犯しやすくなる              |
| 12、単調作業等による意識低下 | ● 単調な反復作業を続けると注意意識が低下しミスを犯しやすくなる           |



### ~ヒューマンエラーの対策~

ヒューマンエラーによる事故の防止では、直接的な要因だけではなく、潜在的・間接的要因を見つけ出しそれらに対応する防止策を二重・三重に行うことが大切です。

ヒューマンエラーそのものが生じないようにする安全教育の徹底(一人KY、新規入場者や職長の明示等)とヒューマンエラーが重大な災害につながらないような設備・手順の改善(注意喚起のステッカー等、チェックリストによる確認等)を組み合わせることで対策を講じることが効果的です。個々の現場において効果的な組み合わせを検討し、実施してください。

ヒューマンエラー対策の一例を紹介します。



### ヒューマンエラー対策の為の安全管理活動の例

KY活動のチェック項目明示



ベスト着用と職長ヘルメットを統一  
職長の意識向上と自覚



緊張緩和とコミュニケーションの向上  
「かたたたき運動」



### ヒューマンエラー対策の為の安全設備の例

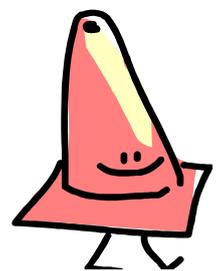
安全帯使用を徹底するための  
のピールマーカの使用



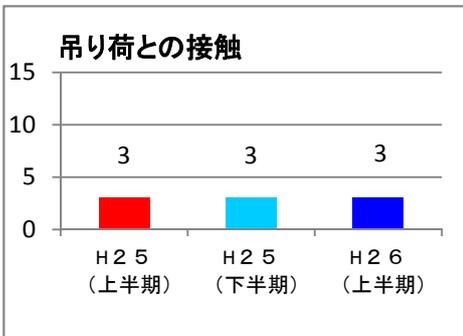
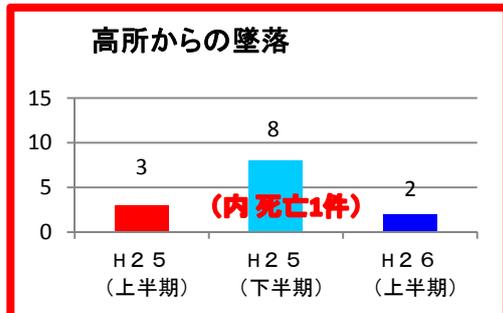
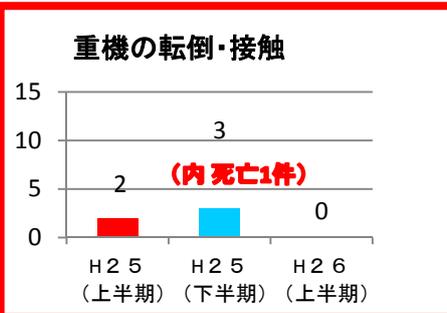
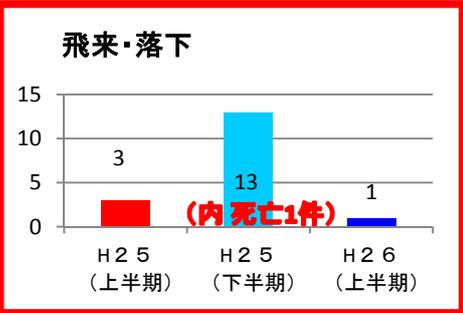
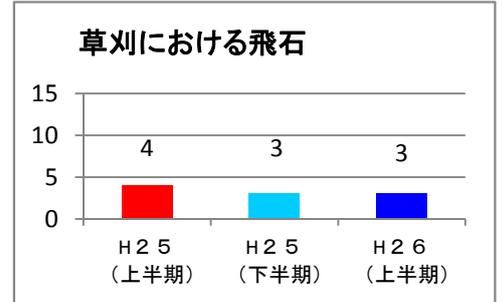
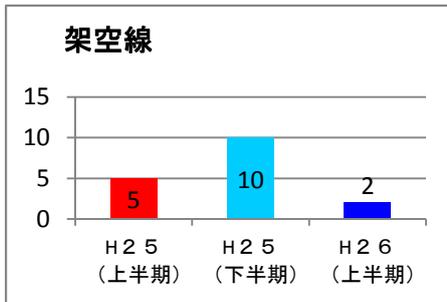
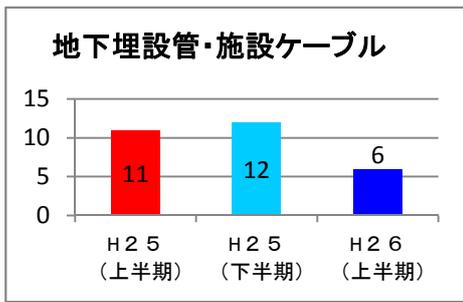
バック禁止前進のみ



つまづき転倒防止



# 平成25度と平成26年度上半期の重点事故比較



上記のグラフは工事事故防止重点対策項目の昨年の上・下半期、今年度の上  
 半期の事故発生件数を示したものです。特に昨年は下半期で重点項目の3件で死  
 亡事故が発生しています。(赤枠のグラフ)

**1、重機の転倒・接触** 掘削作業中に水路に転落  
**2、墜落** 橋梁架設作業中に足場から転落  
**3、飛来・落下** 床掘法肩から土塊が崩落し作業員に激突

今年度は死亡事故は発生していませんが、**死亡事故になりかねない工事関係  
 者事故が多発しています。**下半期は工事量の増加にともない事故の増加も予想さ  
 れます。これまで以上に安全に対する意識を高めて作業を行ってください。



## <吊り荷との接触防止に3・3・3運動の活用を>



平成26年から重点項目に吊り荷との接触が追加されました。クレーン作業で発生する事故は重篤な災害になりかねません。  
 この運動は吊り荷に起因する事故・災害を防ぐのが狙いです。

- ① 玉掛けしたら吊り荷から3m離れ (挟まれ・激突され防止)
  - ② 地切りは30cmでいったん停止
  - ③ 地切りして3秒後に巻き上げる(吊り荷の安全確認による飛来落下災害防止)
- ①では吊り荷から3mはなれることで、荷がふれた際の挟まれや吊り荷に激突を回避する。②では地切りを30cmで一旦停止させることで、荷を安定させます。③は地切り後3秒たって安全が確認できたら合図者の合図で巻き上げを行います。このような活動を活用して、吊り荷との接触事故を起こさないようにしましょう

【引用文献 労働新聞社発行 安全スタッフ No.2223 2014 12/1号より抜粋】



## ～年末年始を迎えるにあたって～



年末年始をむかえるにあたって下記のことを念頭において作業をして下さい。

- ・ 現場及び周辺の安全確認を行い、作業員全員に対して、安全施工を行うよう徹底してください
- ・ 工事休止期前に、**第三者(特に子供)の侵入防止の為にバリケード、看板等の安全設備の充実**をはかり、**立ち入り禁止区域を明確に**させてください
- ・ **工事現場内の整理整頓、飛散防止、可燃物の片づけ、出入り口の施錠等**を確実に**行い盗難に注意**してください

**年末年始を無事故で乗り切りましょう！ご安全に！**

